

当社の社会貢献活動

Corporate Citizenship

良き企業市民

2007年5月17日



日本郵船株式会社

広報グループ長 星野諭

目次

1. 当社の概要と社会貢献活動

2. 何故当社が社会貢献活動を推進するのか

3. 財団法人ジョイセフとの協働事業

4. 社会貢献事業・活動の継続

1.当社の概要と社会貢献活動

① 当社の概要

- 創業 : 1885年10月1日
- 事業内容: 国際的な海上運送業を主とした総合物流事業および客船事業、ターミナル関連事業、海運周辺事業、不動産業、その他の事業など。
- 日本郵船従業員数: 1,669人 (陸 1101・海 658) (2007年3月末現在)
- グループ従業員数: 48,000人 (2006年3月末現在)
- 取り扱い船舶量 : 742隻 (2007年3月末現在)

1.当社の概要と社会貢献活動

② 社会貢献活動の歴史

- 1923年に関東大震災際が発生した際には、横浜港在港中の客船に避難民を収容、東西間の避難客、食糧の輸送に貢献。大半の輸送を無償で行う。
- 1980年代アフリカの飢饉に対する救援活動として、社内で毛布を集め、無償で輸送する。
- 2000年の中期経営計画に基づき、**ジョイセフの支援事業開始。**
- 2004年10月1日「良き企業市民」としてのNYKグループの**社会貢献活動を推進する専門部署コーポレート・シティズンシップ・オフィス設立。**



※コーポレート・シティズンシップ：企業市民、企業市民性、企業市民精神

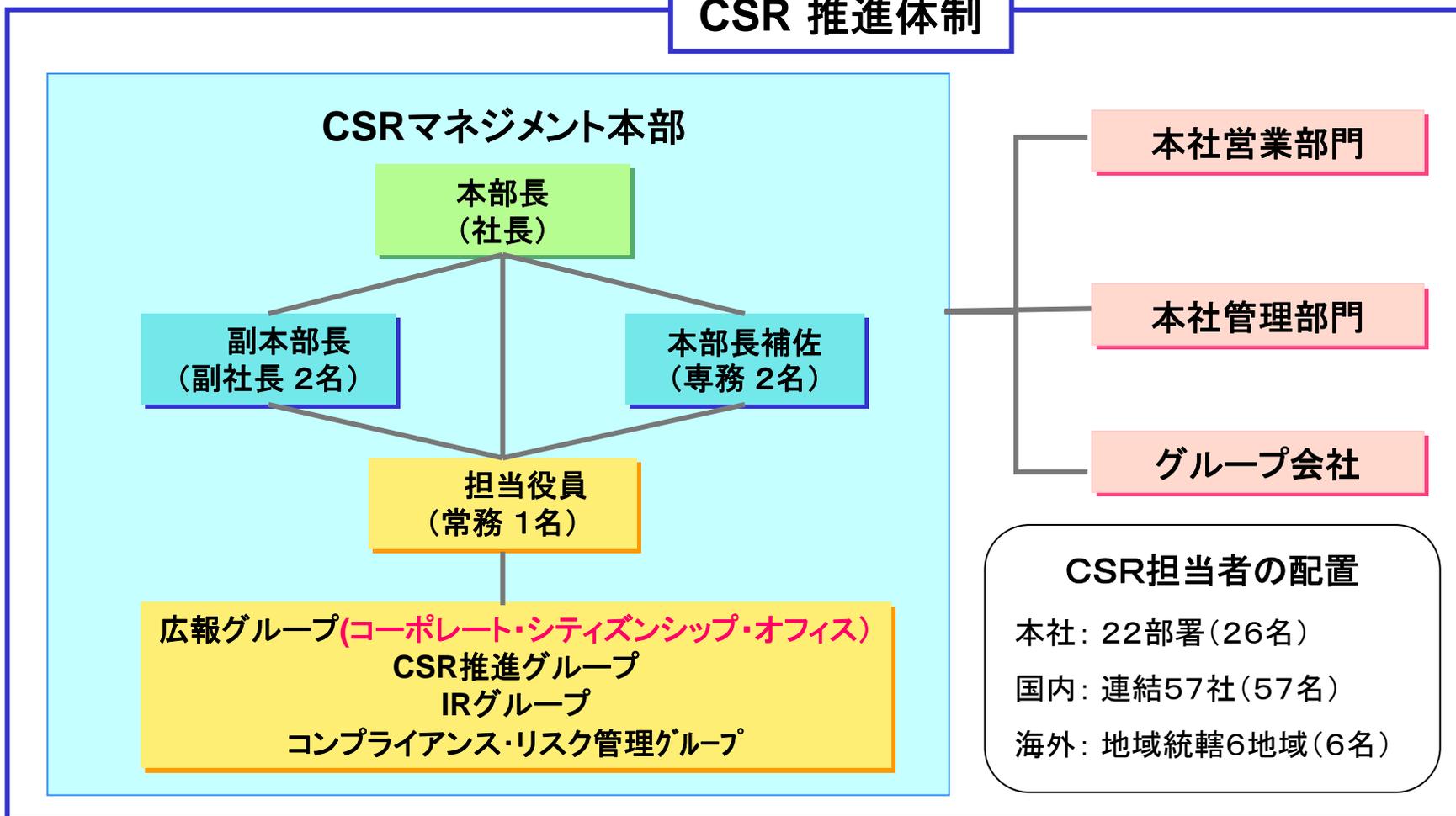


1. 当社の概要と社会貢献活動

③ 部署の位置づけ

2005年4月～

CSR 推進体制



1.当社の概要と社会貢献活動

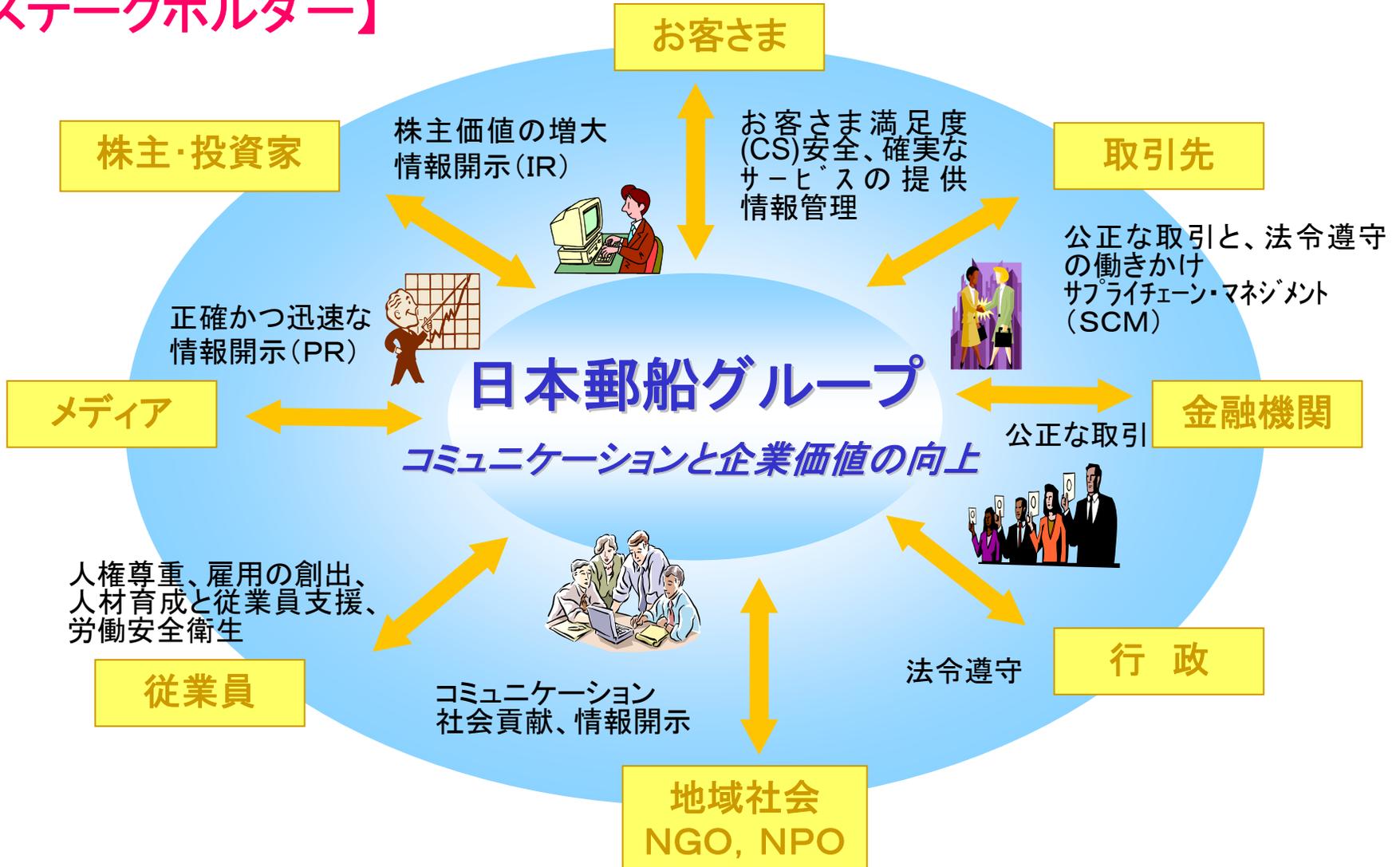
④ 社会貢献活動の基本理念及び活動方針・活動分野

【基本理念】

- 日本郵船は、地球社会と共に生きる「良き企業市民」として主体的に社会の課題に取組み、その活動を通して全てのステークホルダーにとっての企業価値の向上を目指します。

1.当社の概要と社会貢献活動

【ステークホルダー】



1.当社の概要と社会貢献活動

【活動方針・活動分野】

①社員のボランティア活動の推進

社員のボランティア活動を通して、異なる価値観・視点を取り入れることにより、「多様性を尊重する」、「柔軟で活力のある」、「誠実な」企業風土の醸成を目指します。

②未来の地球社会への「投資」

日本郵船の持つ様々な経営資源を、広く社会に対して「投資」することを通じ、より良い地球社会の実現に寄与します。

「投資」・・・NPOなど寄付するだけではなく、「投資」という視点を取り入れ、その経過にかかわり、結果についても評価を行っていきます。

分野 ……環境・国際貢献・次世代を担う人々の成長を応援する活動

③地域社会との共生

地域との積極的な関わりを通して社会との共生を目指します。

目次

1. 当社の概要と社会貢献活動

2. 何故当社が社会貢献活動を推進するのか

3. 財団法人ジョイセフとの協働事業

4. 社会貢献事業・活動の継続

2. 何故当社が社会貢献活動を推進するのか ～企業が社会貢献活動を行う背景～

【企業と社会の関係】

- 社会は企業の存立基盤
- 企業は社会の一員 → 企業市民
- 企業の経済的側面と社会的側面

2.何故当社が社会貢献活動を推進するのか ～企業が社会貢献活動を行う背景～

【企業の社会的責任(CSR)】

「良き企業市民」としての社会的責任を果たしていく



全てのステークホルダーにとっての企業価値の向上



社会の持続的な発展・企業の持続的な成長

2.何故当社が社会貢献活動を推進するのか ～企業が社会貢献活動を行う背景～

【日本にも古くからある考え方】

- 近江商人「三方良し」

売り手に良し 買い手に良し 世間に良し

- 三菱三綱領

- ・所期奉公 社会のために貢献すること
- ・処事光明 公明正大な行動をとること
- ・立業貿易 グローバルな視野で行動すること

2.何故当社が社会貢献活動を推進するのか

社会が社会貢献活動を行う背景～

【企業評価の変化】

経済的側面を重視
社会的側面も重要

経済的側面だけではなく

会社にとって良いことは、
社会にとっても良い。



社会にとって良いことが
会社にとっても良い。

利益至上主義

企業の社会的責任(CSR)
を踏まえた経営

2.何故当社が社会貢献活動を推進するのか ～企業が社会貢献活動を行う背景～

【企業の社会的責任(CSR)の分野】

- 経営の透明性の確保
- 情報開示
- 法令順守
- 従業員の労働条件
- 職場の安全確保
- 環境保全
- **社会貢献**

etc...

2.何故当社が社会貢献活動を推進するのか ～当社が社会貢献活動を通して目指していること～

社会貢献活動の推進を通しての**企業価値の向上**

企業評価の向上
企業風土の醸成 ← 重要！！！！

【企業風土の醸成】

- ・企業評価の向上により、社員が会社に誇りをもてるようになること
  社員の1人1人の誇りを持った行動
- ・社員がボランティア活動を通して異なる価値観や視点を得ること
  「多様性を尊重する」、「柔軟で活力のある」、
 「誠実な」企業風土、風通しの良い企業風土

目次

1. 当社の概要と社会貢献活動

2. 何故当社が社会貢献活動を推進するのか

3. 財団法人ジョイセフとの協働事業

4. 社会貢献事業・活動の継続

3.財団法人ジョイセフとの協働事業

① 経緯と内容

【経緯】

- 2000年開始
- 当時の社長が中期経営計画で「NGO/NPO活動物流支援企業」を宣言。その計画に基づきパートナーNGO/NPOを検討、ジョイセフに輸送支援を申し出る。

【内容】

- 再生自転車及び使用済みランドセルの輸送協力
- 輸送に使用するコンテナの寄贈

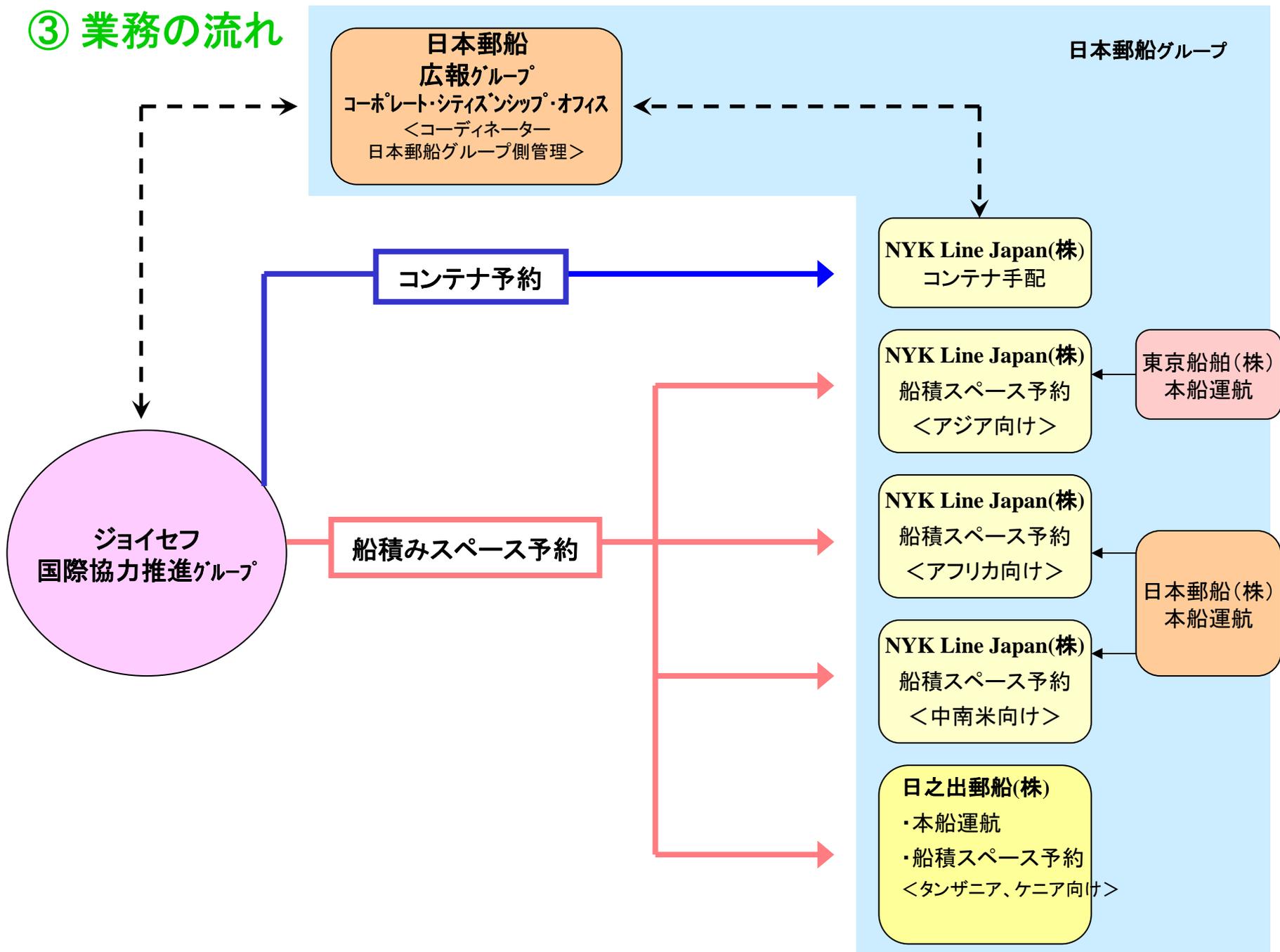
3.財団法人ジョイセフとの協働事業

② 輸送支援・コンテナ寄贈実績

年度	輸送物資			輸送実績	
	再生自転車 (台)	使用済み ランドセル(個)	マシン (台)	回数	TEU
2000年度	2,150	0	0	17	32
2001年度	3,075	0	0	19	27
2002年度	2,850	0	0	20	25
2003年度	1,875	0	0	20	28
2004年度	2,725	5,200	140	17	26
2005年度	2,281	13,680	151	23	35
2006年度	2,800	6,762	80	22	29
合計	17,756	25,642	371	138	202

注： TEU：20フィートコンテナの単位 長さ6m x 幅2.4m x 高さ2.6m

③ 業務の流れ



④ 出荷予定表

2006年度(平成18年度)寄贈物資出荷予定表

2006年3月27日現在

出荷予定		出出国	寄贈物資		パッキング内容				最終仕向地	コンテナ情報				自治体	乙仲	荷受人	フォワーダー	ジョイセブ出荷準備	荷受人コンテナ受取日	担当	
月	日		積荷	個数	本船情報	パッキング#	積港	トランシッパ港		揚港	オーダー進捗	予約連絡	コンテナ#	ピックアップ日	搬入ゲゼル	整備分解ゲゼル	確認				見積
10月	19日	タンザニア	自轉車	200	VIMEN V-67 日の出園協力	802	横兵 10/19		ダルエス サラム 11/14	ダルエスサ ラム	NYK奇贈 20ft×1	済	YKU234 9500	10/11	○	○	○	/	確定	通関手続き中	柴
	18日	モロッコ	自轉車	75	ALIANCA BAHIA v-605S NYK協力 (T/S IWASHIROV-47s)	TKN 80780	横兵 10/18		ダーシ 11/9	カサブランカ 1/8 (MSC Peggy)	NYK奇贈 20ft×1	済	YKU235 5821	10/10	○	○	○	○	確定	MSCOLGA V- 01Rベトナム 完了	甲斐
	26日	カンボジア	自轉車	150	ACX CHERRY 009s NYK協力 (T/S SIFI BHUM V229)	TTN3729 6	横兵 10/26	シンガ ポール 11/7	シアヌ ケル 11/15	プンペン	NYK奇贈 40ft×1	済	YKU603 6627	10/20- 21	○	○	○	/	確定	1月26日	甲斐
11月	23日	スリランカ	自轉車	200	ACX CHERRY 010S NYK協力	TTN4800	横兵 11/23		コロポ 12/14	同左	NYK奇贈 20ft×1	済	YKU235 8409		○	○	○	/	確定	12月26日	甲斐
12月	23日	ニカラグア	自轉車	200	IBUKI V.-13E NYK協力	TKN8124 6	横兵 12/25		コロン 1/20	マナグア	NYK奇贈 20ft×1	済	YKU238 5596	12/19	○	○	○	/	確定	2月10日	柴
	24-25 日	レト	自轉車	150	NYK FLORESTA V.009S NYK協力 (CAP COLORADO V.606S)	TKN8099	横兵 12/25	シンガ ポール 1/5	ダーシ 1/21	マセル	NYK奇贈 40ft×1	済	YKU601 3200	12/22	○	○	○	/	確定	1月29日	甲斐
1月	2月3日	ガイアナ	自轉車	150	IZUMO V.-40E NYK協力	TKN8124 7	横兵 2/2		プエル カルデラ 2/26 (コスタ リカ)	ジョージタ ウン (ガイアナ)	NYK奇贈 40ft×1	済	YKU654 9609		○	○	○	○	確定	3月17日コ ナマを出港 3月24日コ リニダート バロに到着 今週ジョー ジタウンに 向け出港 予定。	柴
	31日	モンゴル	自轉車	200	SKY BRIGHT V047w ジョイセブ手配	JPCB010 504	横兵 1/31	天津	ウラン バートル	同左	NYK奇贈 20ft×1	済	YKU237 2114	1/19	○	○	○	/	確定	2月15日	甲斐

目次

1. 当社の概要と社会貢献活動

2. 何故当社が社会貢献活動を推進するのか

3. 財団法人ジョイセフとの協働事業

4. 社会貢献事業・活動の継続

4.社会貢献事業・活動の継続

① NPO/NGOとのWin-Winの関係を構築

- 企業とNPO/NGOがお互いの専門性を生かした事業の展開
- 相手の立場を理解し、尊重した対応
 - ex.当社からNPO/NGOへのお願い:株式会社としての立場への理解
 - 適切な情報開示
 - 支援活動に対するフィードバック
 - 広報活動への理解・協力

【支援活動に対するフィードバック】

ex: ジョイセフのタンザニア・ザンビアの現地パートナーの
スタッフによる社内報告会（2005年5月）



熱心に報告を聞くグループ社員



ジョイセフのタンザニア・ザンビア現地パートナーのスタッフが
現地の状況、再生自転車の利用について報告

4.社会貢献事業・活動の継続

② 社内の体制構築・条件整備

- **トップのコミットメント**
- 社会貢献のミッション、目標の明確化
- 専門部署の設置
- 合理的な仕事の仕組みの構築、実行、結果評価、改善
- グループ社員の共感
- 社内外広報との連携

【トップのコミットメント】

- 2007年1月31日、社会貢献活動をテーマにしたメディア新年懇親会を開催、当社のパートナーNPO/NGOを10団体招待。
- 当社社長より「**当社は、人や地球を支える種を播くNPO/NGOの団体の皆さまとともにより良い地球社会をめざしていきます**」と宣言、出席しているメディアの方々にもNPO/NGOへの協力を呼びかけた。



各パートナーNPO/NGO代表者の紹介



(財)ジョイセフのスタッフと当社社長

【トップのコミットメント】

- ・社内で開催されるパートナーNPO/NGOのボランティアイベントに
当社会長・社長は積極的に参加



グループ社員とともに、絵本にラオス語・カンボジア語の訳文シールを張るボランティア活動に取り組む当社会長



グループ社員とともに、カンボジアに送る遊具の布を切るボランティア活動に取り組む当社社長

4.社会貢献事業・活動の継続

③ 事業・活動の評価

- ・メディア
- ・SRI
- ・賞関連

ジョイセフとの事業及びスマトラ沖地震の際援助物資の無償輸送が評価され、2005年に第2回朝日企業市民賞を受賞